

「公立高校入試制度の見直し」に係るパブリックコメント実施結果

募集期間 平成21年6月5日から平成21年6月29日まで 意見提出者数 28名 意見件数 84件

県の基本的な考え方

「公立高校入試制度の見直し」については、「確かな学力」を重視する入学者選抜、「生徒の個性」を生かす入学者選抜、とすることを基本理念として、現行制度の成果を継承しつつ、

- ・学習活動への影響：前期選抜の教科数が少ないことや実施時期が早いこと
- ・教育活動への影響：3学期が出願や受検の準備に費やされること
- ・学校生活への影響：前期選抜合格者と不合格者が混在した状況になること
- ・生徒の心理的負担：多くの生徒が前期選抜と後期選抜で同じ高校を2回受検などの課題を解決する観点から検討を行ってきたところです。

今回、パブリックコメントでいただいたご意見については、7月10日に行われました教育委員会に、参考資料1、2のとおり報告させていただきました。

県教育委員会では、このパブリックコメントの結果や、県議会、学校関係者、入学者選抜制度改善検討委員会など各方面からのご意見等を踏まえ、現在の中学2年生が受検する平成23年度入試の概要について、参考資料3のとおり決定・公表いたしました。

具体的には、

- ・現行前期選抜の出願要件アは廃止し、出願要件イ、ウについては見直しを図り、部活動等の活動面を重視する特色選抜として、2月のできる限り遅い時期に実施する
- ・特色選抜については、新しい選抜制度のねらいが生かされるよう、募集割合を絞り込むとともに出願要件や選抜基準の明確化を図るなど、詳細について引き続き検討を行い、今秋決定予定の基本方針において具体的な内容を定める
- ・特色選抜では、県内共通の5教科基礎学力検査を行う
- ・3月上旬に、5教科学力検査を行う一般選抜を実施することとしています。

したがって、今後は、特色選抜の在り方を中心に、引き続き、今回いただいたご意見を参考にして、平成23年度入試の詳細についてさらに検討を行い、今秋に基本方針として決定したいと考えております。

なお、今回いただいた各ご意見に対する県の考え方については、各論点ごとに以下にお示ししておりますので、ご覧ください。

1 学力検査に関すること

番号	ご意見内容（趣旨）	県の考え方
1	前期選抜の検査問題は、総合問題ではだめである。 15歳の子どもには、基礎知識を身に付けさせるために、5教科の基礎をしっかり盛り込んだ問題に、学校独自の応用問題を少し加えて各高校の特色を出した問題を出題すればよい。	中学校での3年間の学習活動を、重視する選抜制度にしたいと考えています。 中学生の「確かな学力」を育成するため、中学3年生の3学期まで、しっかりと学習に取り組み、より多くの生
2	前期選抜は、行きたい高校へのチャレンジであり、個々の生徒の本当の学力をみ	

	る検査がよい。 後期選抜は、今のまま、全校同じ問題がよい。	<p>徒が、3月に実施する県内共通の5教科(国語,社会,数学,理科,英語)学力検査による一般選抜を受検する選抜制度にしたいと考えています。</p> <p>また、2月に実施する特色選抜においても5教科基礎学力検査を実施したいと考えています。</p> <p>なお、学力検査、調査書など選抜資料の取扱の詳細については、引き続き検討を行い、今秋決定予定の基本方針、来年決定する生徒募集選抜要項などにおいて、具体的な内容を定めたいと考えています。</p>	
3	中学校での学習が活かされる形にしてほしい。 学力検査は、5教科を中心にした内容にしてほしい。 前期選抜のための準備期間中にも後期選抜のための学習をするため、後期選抜の出題範囲を配慮してもらいたい。		
4	全員に5教科学力検査を課すこと。		
5	いずれの選抜にも5教科学力検査を課すこと。		
6	全ての学力検査は5教科で実施すること。		
7	5教科学力検査に賛成する。		
8	総合問題又は5教科学力検査とし、傾斜配点をしてはどうか。		
9	確かな学力を育成し、特定教科への偏り等による学力・学習活動への影響をなくすためにも5教科学力検査が望ましい。		
10	前期選抜は3教科(国語,英語,数学),後期選抜は5教科にしてはどうか。 現行制度では、前期選抜の学力検査の教科内容などが複雑すぎる。		
11	前期選抜でも5教科学力検査を実施し、特定教科への偏りが少なくなるようにしてほしい。 若しくは、前期選抜では学力検査を実施しないようにしてはどうか。 前期選抜の合否判定においては、学力検査の重みは20%程度とし、他の選抜資料をより重視する方がよいと思う。		
12	総合力を確認するために、5教科学力検査を実施すべきである。		
13	前期選抜は総合問題のみとする。 また、調査書の比重を大きくすることで、当日の検査の出来・不出来だけでなく、中学校3年間を通しての学力を評価してほしい。		
14	徳島県立城ノ内中学校又は徳島県立川島中学校の生徒がそれぞれ徳島県立城ノ内高等学校又は徳島県立川島高等学校へ進学する時には高校入試がないため、「アチーブメント・テスト」を行ってはどうか。		併設型中高一貫教育校では、高校進学時の選抜は行いませんが、中学生に対しては、中高が連携をして学習指導等を行っています。

1 5	<p>国語の検査では、「論理」と「情」とをバランスよく出題する。 作文は、国語の検査から独立させて、論理的思考力を問う小論文とする。 社会の検査では、「日本国憲法」の条文、地理・歴史の問題を出題する。 理科の検査では、物理、化学、生物、地学の「総合基礎理科」を出題する。 また、原子の問題を出題する。 数学の検査では、数列の問題を出題する。</p>	<p>中学校学習指導要領に示された範囲内で、平常の学習によって養われた力で解答できる問題となるよう配慮し、基礎的・基本的な知識・技能の定着や、思考力、判断力、表現力などをみることができ問題を出題したいと考えています。</p>
1 6	<p>問題作成にあたり、中学校、高校の各教科の教員、大学の教育学の教員の意見を聞く。</p>	<p>学力検査問題については、検査終了後、中学校・高校の教員からのご意見をいただいています。</p>

2 実施時期に関すること

番号	ご意見内容（趣旨）	県の考え方
17	前期選抜が2月，後期選抜が3月でよい。	<p>中学校教育に影響を及ぼさず，また，中学校における教育活動の成果を十分評価することができる時期にしたいと考えています。</p> <p>2月に実施する特色選抜は，現在の前期選抜よりもできるだけ実施時期を遅らせたいと考えています。</p> <p>3月に実施する一般選抜は，現在の後期選抜と同時期に実施する予定です。</p>
18	現在の前期選抜の実施時期は，後期選抜の実施時期から考えると妥当である。	
19	現在の前期選抜の実施時期は，後期選抜，第2次募集の日程から考えると，やむを得ない。	
20	<p>現行の日程で良いと思う。</p> <p>2月・3月は高校準備期間として，中学校の総復習や高校の準備的先取り学習をしてはどうか。</p> <p>出願要件イ，ウで合格した生徒も，高校の部活動の指導者と相談して，高校入学後の部活動の準備をしてはどうか。</p>	
21	<p>前期選抜と後期選抜の間隔は，できるだけ短い方がよいと思う。</p> <p>教員の負担もあり限界はあると思うが，前期選抜合格者と後期選抜を受けなければならない者が一緒に学ぶ期間は，短い方がよいと思う。</p>	
22	2月下旬ごろに実施するのがよい。	
23	学力，学習活動が中途半端となるので2月初旬は早すぎる。	

3 2回受検に関すること

番号	ご意見内容（趣旨）	県の考え方
24	<p>前期・後期の2段階選抜については反対である。 2段階選抜は、中学校の学習内容が修了していない段階で、前期選抜を受検することとなり、合格した生徒にとって、その後の授業内容に対する意欲が低下する恐れがあること。前期合格者と後期合格者との間に知らないうちに格差感が生まれることが懸念される。 主な理由は以上2点であるが、いいことは何もないと思う。</p>	<p>前期選抜で合格した生徒と後期選抜を受検する生徒と一緒に学校生活を送ることや、同じ高校を前期選抜・後期選抜で2回受検するなどの現行制度の課題を解決し、新しい選抜制度のねらいである「確かな学力」を重視する入学者選抜とするため、現行の前期選抜の出願要件アは廃止し、中学3年生の3月まで、しっかりと学習に取り組み、より多くの生徒が、3月に実施する一般選抜を受検する選抜制度にしたいと考えています。 また、「生徒の個性」を生かす観点から、出願要件イ、ウの見直しを図り、部活動等の活動面を重視する特色選抜として、2月のできるだけ遅い時期に実施したいと考えています。</p>
25	<p>現行制度では、前期選抜の合格者が少なすぎる。試しに全員に前期選抜を受検させ、結局後期選抜で行ける高校を受検させている。 不合格の経験をほとんどの生徒に一度させているようなものである。</p>	
26	<p>大阪府など私立高校が多い都道府県では、私立高校と公立高校の併願が当たり前に行われている。 徳島県は私立高校が少ないため、公立高校の入試では2回受検にしてもよいのではないか。 生徒にとって、チャレンジは大きな負担ではない。</p>	
27	<p>公立高校への進学率が高い本県では、2回受検によって、概ね学力に応じた、希望する高校へ進学できる。</p>	
28	<p>現行の2回受検の方式がよい。 ただし、前期選抜による入学者と後期選抜による入学者で著しく学力差が生じるとすれば、学校運営上望ましくない。 前期選抜の募集割合を増やすことで、学力差を縮めることができる。</p>	
29	<p>現行の複数回受検は、最善でないにしても良い方法であると思う。 生徒にとっては、同じ高校を2回受検する負担があることや、2回チャレンジできることにも意味があると思う。</p>	
30	<p>2回受検できることはチャンスが増えて良い。 前期選抜で受検の雰囲気味わっておくと、後期選抜では緊張が押さえられる。 同じ高校を2回受検するのは、進路が絞れているからだと思う。 2回受検できることで、前期でチャレンジしたり、入りたい高校を1つに絞るなどの選択ができる。</p>	
31	<p>前期選抜と後期選抜の募集人員は、現行と逆転させて、前期選抜で7割程度合格させるか、前期・後期をそれぞれ5割ずつ合格させて、高校が求める生徒を前期選</p>	

	抜で確保できるようにしてはどうか。	
3 2	受検は，3月に1回で十分である。	
3 3	1月に大学入試のAO入試のようなものを実施し，3月に一般入試を実施する。	
3 4	前期選抜・後期選抜の2回にせず，後期選抜1回にするのがよい。	
3 5	2回受検をやめて，1回の選抜にしてはどうか。 ただし，志願状況を見て，1回だけ志願変更ができることが必要である。	
3 6	前期選抜をやめて，後期選抜でより多くの合格者を出す工夫をするのがよい。	
3 7	2回受検は心理的負担が重いため，受検は1回が望ましい。 1回のみを受検とした方が，真剣に取り組める。	
3 8	前期選抜は廃止し，現行の後期選抜に統一して実施すべきである。	
3 9	受検は1回として，3月に実施するのがよい。	
4 0	前期選抜の必要性は感じられない。 以前の3月に1回を受検と第2次募集で行うのがよい。	
4 1	1回を受検で，複数校を希望できる制度にできないか。	選抜制度が複雑になり，志願の偏りによっては，不合格者や欠員の増加が懸念されます。
4 2	体調不良の際の救済，受験機会の確保の観点から，時期をずらせて2回選抜を実施するのがよい。	新しい選抜制度においても，引き続き，追検査を実施したいと考えています。

4 中学校生活への影響に関すること

番号	ご意見内容（趣旨）	県の考え方
4 3	前期選抜後の学校生活や後期選抜受検に向けた指導は、中学校教員の責務である。	<p>生徒の心情にも配慮しつつ、前期選抜で合格した生徒と後期選抜を受検する生徒と一緒に学校生活を送ることや、同じ高校を前期選抜・後期選抜で2回受検するなどの現行制度の課題を解決するために、出願要件アは廃止し、中学3年生の3月まで、しっかりと学習に取り組み、より多くの生徒が、3月に実施される一般選抜を受検する選抜制度にしたいと考えています。</p> <p>また、3学期が出願や受検の準備に費やされている現行制度の状況を改善するため、選抜に係る期間を短縮し、教員が学習指導や生活指導のために生徒と向き合う時間を確保するなど、通常の教育活動に及ぼす影響を少なくしたいと考えています。</p>
4 4	前期選抜後は、気まずい雰囲気になるが、合格者が少なければそれほど考慮する必要はない。	
4 5	前期選抜の合格者の学習状況等に問題があれば、他の生徒にも影響する。	
4 6	中学3年生の学習は、最後まで修了させて、受検させるようにしてほしい。受検に間に合うよう、1月か2月でカリキュラムが修了するようにしてはどうか。	
4 7	入試の時期までに、中学校の学習内容を修了するカリキュラムが必要である。	
4 8	前期選抜後の中学校生活は、後期選抜受検者にとって、受検に対する学習意欲に影響を与える状況にある。	
4 9	現行制度の前期選抜の合格者と後期選抜を受検する生徒と一緒に学習するのは、教育上望ましくない。	
5 0	中学校では、前期選抜と後期選抜の異なる傾向の入試対策に追われている。	

5 特色ある選抜に関すること

番号	ご意見内容（趣旨）	県の考え方
5 1	<p>出願要件イ，ウの制度はそのままよいと思うが，部活動を入試の際に指定し，高校で3年間部活動に取り組むことを選抜の条件とする。</p> <p>出願要件イ，ウでは，学力面も十分な生徒を入学させて，学習と部活動等を両立させてほしい。</p>	<p>現行の前期選抜の成果を継承し，「生徒の個性」を生かす観点から，一般選抜とは別に，部活動等の活動面を重視する特色選抜を2月に実施したいと考えています。</p> <p>特色選抜については，新しい選抜制度のねらいが生かされるよう，募集割合を絞り込むとともに出願要件や選抜基準の明確化を図ること等を検討したいと考えています。</p> <p>「確かな学力」を重視する観点から，特色選抜においても5教科基礎学力検査を実施したいと考えています。</p> <p>なお，特色選抜については，生徒の主体的な進路選択を促進する観点から推薦制度とはしておりません。</p> <p>また，それぞれの選抜の趣旨を生かす観点から，特色選抜と一般選抜は実施時期を別にしています。</p> <p>特色選抜の募集人員については，前期選抜で合格した生徒と後期選抜を受検する生徒と一緒に学校生活を送ることや，同じ高校を前期選抜・後期選抜で2回受検するなどの現行制度の課題を解決するために，現行の前期選抜の出願要件イ，ウの募集人員以下に設定したいと考えています。</p> <p>特色選抜の募集割合，出願要件，選抜資料等の詳細については，引き続き検討を行い，今秋決定予定の基本方針，来年決定する生徒募集選抜要項などにおいて，具体的な内容を定めたいと考えています。</p>
5 2	<p>以前のスポーツ推薦は，それなりの成果があがっていたのではないか。</p> <p>部活動で頑張っている生徒を評価せずに，学力検査だけで選抜するのでは，徳島県の競技力は向上しない。</p>	
5 3	<p>特色ある選抜はあっていいと思う。</p> <p>高校が，面接等を実施して，スポーツ等に特に優秀な生徒を，合格させればよい。</p>	
5 4	<p>特色選抜では，スポーツ指定校の選抜をかつての中学校主導の推薦入試の形式に戻すのがよい。</p> <p>特色選抜は募集基準を明確に提示すること。</p>	
5 5	<p>学校の特色を生かすことは重要である。</p> <p>出願要件イ，ウと後期選抜を同時に実施してはどうか。</p>	
5 6	<p>特色選抜では，どの程度の実績が必要であるがわかるようにしてほしい。</p> <p>県レベル，全国レベルの記録など実績を重視するのもよいが，記録に残る実績はなくとも，3年間努力した生徒を評価するようにしてほしい。</p>	
5 7	<p>全員に5教科学力検査を課し，募集定員の95%を超える程度は，学力検査のみで合否を決めること。</p> <p>残り5%未満について，95%程度の合格者の最低点の95%以上の得点者のみ，体育，芸術，社会活動で特に顕著な者を選抜する。</p> <p>学力が十分でない生徒を入学させる制度にならないことを望む。</p>	
5 8	<p>スポーツ指定校は，県外から競技力の高い生徒を募集しているのではないか。</p> <p>スポーツ指定校には，県内の生徒を募集して，育て上げてほしい。</p>	
5 9	<p>体育的・文化的な活動のみ熱心に取り組むだけでなく，学力も十分な生徒を合格させることが，県全体の学力向上につながる。</p>	
6 0	<p>優秀な選手の募集について，透明性のある制度にしてほしい。</p>	

6 1	部活動等の活動実績を生かした特色選抜は、大に行うべきであると考える。現行制度よりも、もっと枠を増やすのが良いと思う。
6 2	後期選抜の中で、ボランティア、部活動、生活態度等をみればよい。
6 3	部活動等の活動で出願する者すべてが、その競技や分野でのプロを目指すものではない。 勉強をすることが大切である。 部活動等の活動を特色扱いするのはおかしい。
6 4	学力の低い生徒が、特色選抜で合格するのでは、高校での学力差のある生徒の指導が大変である。 スポーツ先進県になることが、子どもたち全体にとって幸せであるとは思えない。 特色選抜を実施するならば、明確な基準を示し、全国レベルの優秀なスポーツ選手に限定すべきである。
6 5	現行の前期選抜は、特色ある学校に思いを寄せて受検する生徒の為の選抜というより、多くの生徒の中から、選りすぐりの生徒をとるという高校本意の選抜である。
6 6	前期選抜の出願要件ウでは、競技力向上スポーツ指定校が優秀選手を集めているが、1校に集めずに、分散すべきである。 出願要件ウのような特別な枠を設けずに、出願要件イでいいのではないか。
6 7	スポーツや学力の面で秀でている生徒を推薦する制度がよいのではないか。

6 その他，高校入試制度全般に関すること

番号	ご意見内容（趣旨）	県の考え方
68	<p>調査書を重視するということだが，授業態度等を厳しく評価して，子どもたちを枠にはめすぎるのは良くないと思う。</p>	<p>調査書の作成につきましては，入試の信頼性，客観性を高めるためにも，引き続き，厳正で公正なものとなるよう，指導したいと考えています。</p>
69	<p>高校全入時代であり，「せめて高校ぐらいは出ておかないと。」という観点から入学を受け入れるように考えてはどうか。 安直な制度見直しとならないようにしてほしい。</p>	<p>高校への入学につきましては，高等学校は，義務教育の基礎の上に，より高度な教育を行うものであり，学校教育法施行規則には「学力検査の成績等を資料として行う入学者の選抜に基づいて，校長が許可する。」と規定され，文部事務次官通知においても，「高等学校の入学者選抜は，各高等学校，学科等の特色に配慮しつつ，その教育を受けるに足る能力・適性等を判定して行うものとする。」とされています。</p> <p>本県の現状としては，公立高校の募集定員の設定状況や，県内の私立高校の定員，高専への進学状況等から，高校進学希望者のほぼ全員が入学できる状況にあると考えています。</p> <p>今後とも，各高校が学校・学科等の特色を生かし，生徒たちが誇りを持って通える学校づくりを行っていきたいと考えています。</p> <p>なお，入試制度の見直しについては，現行の入試制度を導入した平成16年度から入学者選抜制度改善検討委員会での検討を踏まえ，毎年，運用面での改善や現行制度の成果と課題を検証しつつ，将来の入試制度の在り方を検討してきました。</p>
70	<p>毎年100人以上の不合格者があると聞くと，厳しい時代なので，第2次募集などで受け入れる努力をしてほしい。 また，市内の高校に人気があるが，それぞれの地元高校が充実していれば，無理に下宿や寮に入らずもと，自宅から通学でき，生徒や保護者の負担も減る。</p>	<p>（この欄は上記の69番と同様の内容が記載されています。重複して記載しないように注意してください。）</p>
71	<p>高校が自校の特色を明確にして，十分な説明を行って，中学生に志願してもらうようにすることで，特色ある学校づくりが推進される。</p>	<p>中学生体験入学や学校説明会，各高校のホームページ等を通して，学校の特色や志願してほしい生徒像など，情</p>

		報提供に努めていきたいと考えています。
7 2	<p>制度の細かい部分の改善は、ある程度の期間を経れば、必要と思われるが、大枠の改革は、慎重に行ってほしい。</p> <p>生徒や保護者等の意見を受けて、入試制度を何度も変更する事は、返って混乱すると思う。</p> <p>現行制度は、複雑でいまだに理解できない。</p> <p>できるだけ「わかりやすい入試制度」にしてほしい。</p>	<p>「確かな学力」を重視し、「生徒の個性」を生かす基本理念に沿いつつ、生徒や保護者にとって、「わかりやすい入試制度」となるよう、引き続き、入試制度の詳細を検討したいと考えています。</p>
7 3	<p>徳島市との境（市外）からは、市内の生徒に比べて、高得点でないと市内普通科高校を受検できない。</p> <p>城ノ内高校のように、市内普通科高校の通学区域を全県にしてほしい。</p>	<p>普通科の通学区域については、遠距離通学や特定校への志願集中の緩和、地元高校育成の観点から、3学区という広い通学区域を設けるとともに、一定の学区外流入率を設定することで、学校選択の自由を保障しつつ、一極集中の緩和に努めているところです。また、専門学科・総合学科、定時制高校の通学区域は県内全域です。</p>
7 4	<p>徳島市内の普通科高校を志願する場合、学区内受検と学区外受検では、合否にかなりの得点差がある。</p> <p>徳島県内で学区内外で区別をする必要はないのではないか。</p> <p>学区外には、徳島市内の普通科高校へ行きたくても行けない生徒がたくさんいる。</p> <p>徳島市内の生徒も、市内の普通科へ行きたいなら、もっと勉強すると思う。</p> <p>もっと平等にすべきである。</p>	
7 5	<p>学区内外の区別は不要である。</p> <p>地元のことや、通学のことを考えると学区が必要だが、視野が狭くなる。</p>	
7 6	<p>学区制を廃止するか、学区外流入率を増やすべきである。</p> <p>遠距離からの入学者が多い場合には、民間の集合住宅を借り上げる等、寮の整備を提案したい。</p>	
7 7	<p>学区制を廃止し、郡部から徳島市内の普通科を志願しやすくしてほしい。</p>	
7 8	<p>努力した生徒が報われる入試制度にしてほしい。</p> <p>学区内・学区外の区別があるせいで、行きたい高校に行けない状況にある。</p> <p>学区制は廃止してほしい。</p>	
7 9	<p>それぞれの郡市のすべての子どもに、教育の機会を均等に与える入試制度にしてもらいたい。</p>	
8 0	<p>中学校1、2年生の子どもにわかる情報を伝えてほしい。</p> <p>中学3年生になれば必死になるが、中学入学時から意識していれば、余裕をもって受検に臨むことができる。</p> <p>中学1年生から、どの高校でも学校公開や体験授業に参加できればよい。</p>	

	<p>通学区域や調査書の記載事項について，中学1年生時に説明してほしい。中学1年時の成績が調査書に記載されることは通信教育の資料で知った。</p>	<p>から，対象となる生徒が中学2年生の夏休みを迎える前に概要を公表したところ。今後，募集割合や出願要件，選抜資料など入試制度の詳細を定めた基本方針を今秋公表し，来年の早い時期に選抜日程や手続き，選抜方法などを記載した生徒募集選抜要項の素案を公表したいと考えています。</p> <p>また，中学校対象の入試説明会等を通して，中学1，2年生の生徒や保護者に対しても，高校入試について適切な説明を行うよう，指導したいと考えています。</p>
8 1	<p>入試制度を見直す機会に，高校にも特別支援学級を設置することを検討してもらいたい。 少なくとも福祉科のある高校には，設置してほしい。</p>	<p>学校教育法施行規則において，小中学校の特別支援学級に関しては，特別な教育課程を編成できることが規定されていますが，高校に関しては規定されていません。</p> <p>高校の教育課程に沿った教育を受けることが可能な生徒については，障害の有無に関わらず，入学者選抜を経て，受け入れに努めています。</p> <p>重度障害等があり，高校の教育を受けることが難しい生徒については，特別支援学校の高等部において，障害の状況等を考慮し，適切に編成した教育課程に沿って学習できることになっています。</p>
8 2	<p>高校へ行きたい生徒の全入学及び高校での多様な生徒に対する柔軟な指導体制の拡充を考えてほしい。 高校にも特別支援学級を設置して，重度身体障害や知的障害の生徒のための別の選抜制度をつくってほしい。</p>	<p>併設型高校には，併設型中学校と他の中学校からの生徒が入学することから，それぞれの実態に応じたクラス編成や学習指導に努めるよう，引き続き指導していきたいと考えています。</p>
8 3	<p>新型インフルエンザが流行した場合に備えてほしい。</p>	<p>国の動向を注視し，保健福祉部局との連携を図りつつ，適切に対応したいと考えています。</p>
8 4	<p>中高一貫教育校では，現行の入試制度では，校内の学力格差が広がるばかりである。 他の高校とは異なる入試制度を考える必要がある。</p>	<p>併設型高校には，併設型中学校と他の中学校からの生徒が入学することから，それぞれの実態に応じたクラス編成や学習指導に努めるよう，引き続き指導していきたいと考えています。</p>